

本興寺だより

令和六年 四月
第二五六号

「財あるも財なきも、命と申す財に過ぎたる財は候はず。いにしへの聖人・賢人と申す人は、命を佛にまいて佛になり候なり」

(宗祖 事理供養御書)

桜の開花が始まりました。日本列島は縦に長いので、九州から北海道まで、三月下旬から五月中旬までどこかで花見が楽しめます。

春の到来と共に一斉に花咲く華やかさがありません。満開の後、そよ風に散るのを見ると、清く美しい中に、花のつかの間の一生を通して、人の生き方も教えている気がします。

桜の花言葉の一つに「私を忘れないで」とあります。恋愛や戦争、亡き人等の別れで、散りゆく花の傍さに、別れの切なさ、変わらぬ御霊への想いを重ねて込めた言葉です。

四月八日はお釈迦様の誕生日（花祭り）です。誕生の時、七歩歩かれ、右手で天を指し、左手で地を指して「天上天下 唯我独尊」と叫ばれ、その時、天に九頭の龍神が現れ、悦びのあまり、甘露の雨を降らせ、産湯を使わせたとあります。甘露とは、天地の陰陽の気が調和した時、また高い徳の王者がこの世に現れる



時、天から降る甘い液体であると云われます。それが江戸時代から、甘露を意味する甘茶に替わっているのです。お釈迦様（誕生仏）に甘茶をかける所以です。「天上天下 唯我独尊」とは、「天にも地にも、ただ一つ。我が命ほど尊いものはない。その命をしつかり生き切るには、人それぞれの一つの尊い目的（道しるべ）がある」ことを弁えよということですが。

この言葉の後は、「三界皆苦 吾当安此」この世（三界）は苦しみの多いところである。私（お釈迦様）の幸せと安らぎに導こう」と続きます。

命が尊いことは皆百も承知していることで、す。しかし理解はしていても、それが実感として心に響く時は少ないのです。私達は何時も自分の命は安全圏にいると錯覚しています。災難にも災害にも遭う危険性は全く想定していません。人生には生老病死の四つの大きな苦があると説かれていますが、人は自分が老いも、病を患うことも、死に至ることも考えていません。だから老いを感じた時、或いは病がわかった時、死を意識せざるをえなくなった時、人は想定外のことでは減入るのです。

命は盤石の大地の上にあるのではなく、実は何時割れるかもしれない薄氷の上に存在している。と知った時、命は何ものにも代えがたい財（宝）であると気付

くと云われます。

その尊い自分の命を無意識に縮める生き方をして、いることに気付くと云われます。身体を酷使する過労や疲労が寿命を縮めることは想像できませんが、精神的な疲労が、より身体に大きな悪影響を与えていることは気付かないのです。

以前に、有名な外科医の本田先生という方の講義を上京して聴講したことがあります。先生は外科手術をされたチームの先生の症例も含めて、千人ほどの患者さんにアンケートをとられたということですが。

「なぜ癌になるのか？共通点はないのか？」を知るために。当時は、胃がんであれば胃潰瘍、肝臓癌であれば肝硬変というふうには、病名をばつかりと本人に告知しない時代でした。

アンケートの結果、九割以上の患者で共通点があったということでした。それはほとんどの方が、発症する一年から二年位前までに精神的に大きな動揺があったと答えたということですが。

倒産、離婚、別れ、人間関係の崩壊、災難など。今でいうストレスです。「その出来事があなたの今の病気に影響していると思いますか？」と問うた時100%の人がそう思うと答えたということですが。

ストレスが免疫力を弱め、その発散の下手な人、気持ちの切り替えのできない人が、心を知らず知らずのうちに疲弊させ、想像以上に身体も蝕むのです。

現状に満足できない魂の叫びがストレスになるの



です。この精神的ストレスが、肉体の命に大きく係り、老いや病を早め、天から与えられた寿命を全うできなくすると云われます。

病気を気の病いと書くのは、心の持ち方が、発病の前でも後でも、症状を大きく左右するからなのです。気の持ち方は、どんな時でも単なる気休めではなく、人生を変える力があるのです。

人は辛い時ほど、無意識に自分の立場を他人と比較して、自信を無くしたり、現実を逃避して自分の殻に閉じこもりがちになります。家の窓を全て閉め切つていれば、太陽の暖かい光も入らず、新鮮な空気も流れず、じめじめして湿気が充満します。

同様に、心を閉ざせば、陰気になり、何事も消極的になり、幸運を逃すことになりません。

辛い時ほど心の窓を大きく開いて、自然の新鮮な気を取り入れ、他人の意見に耳を傾け、全て自分の糧とする気持ちで大事にすることが大切です。

自分の信念、計画が打ちひしがれることがあっても、精神的ストレスを溜めて命を削ることのない人生が大事なことを示しています。

大谷翔平でさえ、あれだけ信頼していた腹心に裏切られることもあるのですから。それでも大谷には困難を乗り越えて頑張れとエールを送るでしょう。他人のことなら冷静な判断ができるのです。

自分の時も同じように、不安や心労の気持ちで挫折しかけても、心をリセットして前向きに進めるはずなのです。合掌 本興寺住職 中 谷 聰 秀